

はじめの一步

阿山学同研 秋季研修会をふり返って

2021年11月2日(火)に、関西外国語大学の明石一朗さんから、「どの子どもも安心できる学校・保育所づくり」という演題で、講演をしていただきました。リモート中継になるかもしれないと心配していたこともあったのですが、保小中の職員が集まって、いっしょに研修を行うことができました。

たいへん遅くなりましたが、皆さんの学びや感想を紹介します。もう一度目を通していただいて、講演の内容をふり返ってみたいと思います。

《参加者の感想》

・子どもは、心と体が元気になると学校へ行きたくなることをあらためて再確認しました。コロナのことで様々なことが制限されると、心と体のパワーがどんどん減っているのだと思います。おうちの人との関係、おうちの状況に思いをはせながら、いつも子どもたちを見ていかなくはと思いました。養護教諭という立場から、子どものパワーの土台となる生活を少しでも支えていけるような取組も考えていきたいと思いました。

・子ども理解は、子どもだけでなくその先にある家庭を見ることの大切さ、家庭との協力が不可欠と感じました。保護者との連携が苦手でしたが、気持ちを切り替えたいと思いました。

・笑いあいの講演で楽しく、明るく「人権」について考え直すことができました。子どもに対して「視点」を変えれば(立場の違う人が見たら)見方が違うことにはっとしました。もう一度、学級の子どもたちを多視点から見直し、子どもが好きな先生になっていきたいと思いました。

・たくさんの子どもたちの体験談が心に響きました。子どものつながりは、生活を知り合っていていくと感じました。安心して過ごせる学校づくりに努めます。

・明石先生のお話、関西系のジョーク、軽話も交えながら、子どもとかかわる立場にいる者として基になるとても大切なことをいくつも教えていただきました。子どもとかかわる中で、あらためて大事にし、心にとめて保育に当たっていきたく思います。

・とてもためになるお話でした。今後は、明石先生の話をも参考に子どもの安心をつくっていきたくと思いましたが、とても楽しかったです。

・当たり前の日常にもいろいろなことがあるんだとあらためて知りました。楽しくお話を聞かせていただき、考えさせられたことがたくさんありました。

・ユーモアを交えながら、人として大切なことは何か考えることができました。今、クラスの子どもたちが自分たちの思いを出そうとしています。思うように出せないことがあります。「こころざしが同じなかまがいるとできる」というお話が心に残りました。「一人ではできないことも人とつながることとできる」そんなつながりを子どもたちに感じさせないと思いは出せないのだとあらためて思いました。

・子どもがよくないことをした時は目がいくが、良いことを継続して行っている時には褒めるべき場面でも褒められていないことがあったなど自身の普段の行動を振り返る機会になった。トラブルが起こったときの記録が、良かったことの記録より多くなってしまっているが、普段の小さいことでもよいところを見つけていくよう意識していくことで、子どもに自信を持たせることができるような教師になっていこうと思った。学級全体を見渡せていないところがあったが、学習や心身や家庭環境に課題のある子どもを元気に登校させることができるよう、私自身の行動を変えていこうと思った。

・「子どもたちを『諦めない』」これは、とても大切なことだとあらためて思いました。教師が勝手な思い込みで子どもたちの可能性を決めつけてしまうことの危険性について改めて今後自分の中で確認していかななくては・・・と思いました。知らず知らずのうちに、経験年数が増えるとともに・・・とならぬ様、教師自身が謙虚さを忘れないようにしていかなければ・・・と大切なことに気づかせていただきました。

・「どの子どもも安心できる学校・保育所づくり」というテーマでお話していただき、子どもについての具体的な例から教師に求められる「授業力」「子ども理解力」「保護者等の対応力」の3つの力が印象に残りました。授業が分かると自信につながること、教師が子どものくらしをつかみ、子どもが抱えているしんどさをこの学級のなかまなら話せるという集団をつくっていくこと、客観的に事実をつかむことの3つが揃うことで、どの子どもも学校に行きやすく、安心して過ごすことができるのだと改めて考えさせられました。普段の研修でも話題に出ることですが、当たり前で流すのではなく、常に自身の3つの力を振り返り、子どもたちにとっての最善を考えていきたいです。

・ご自身の経験の中から学ばれたこと、そして感じてこられたこととお話されるので、心に響いてくる言葉になって、自分に届いてきました。子どもを理解するということは、その子のくらしを丸ごと知っていくということ、それが大切だと分かりました。また、自分の力をつける（授業力）ためには、自分から授業を見てもらう、学びに活かしてもらうこと、していなかったなあと反省しました。どの子も不安や心の痛み、心配なことを背負って学校に来ているということをいつも頭に置いておくことの大切さを実感し

ました。トラブルの話は、とても参考になりました。事実をつかむということがとても大切だと分かりました。

・明石先生の話をお聴かせしてもらっていると、今担任をしている子どもたちの顔が浮かんできました。「自分らは、やってもわからんねん。」や「おまえなんか、やってもあかん。」と言われたことがあって、自信がないし、友だちのことが信じられないという子どもたちでした。子どもたちに寄り添って、話を聴いたり、漢字フラッシュカードを作ったりいっしょにやったり、具体物を作って授業をしたりすることで、子どもたちの方から、「授業が楽しい。分かるから。」と言ってくれました。今では自分からやる気を出してくれたり困っている友だちの話を聞いたり、自信を持って日々成長していく子どもの姿を見ることができてきています。やっぱり、安心・安全な学級・つながるなかまがいるということがいかに大事かということを改めて感じました。これこそ一人一人の人権が大事にされていることだと思いました。これからも子どもの悩みやしんどいことなどの声を聴きながら、安心して学級で勉強できる環境を子どもたちといっしょにつくっていきたいと思います。

・リモートではなく直接お会いしてお話が聴けたことは、とてもうれしく思いました。一人一人を丁寧に見ること、どの子どもも毎日楽しく学校に来れるように分かりやすい授業となかまづくりを進めることにきちんと取り組むことの大切さを改めて感じました。また、家庭と連携しながら、やはりくらしでつながることが大切です。一つ一つ実践していきたいと思いました。同時に職場に増えてきた若い先生たちと共有していかなければならないと思いました。

・明石さんのお話、関西系のジョーク、軽話も交えながら子どもと関わる立場にいる者として基になるとても大切なことをいくつも教えていただきました。子どもと関わる中で改めて大事にし、心にとめて保育に当たっていききたいと思います。

・子どもが安心・安全な気持ちでいられる環境（心も場所も・・・）が大切です。そのこと、先生の話聞いて自分の行いや職場での様子が思い浮かびました。これからは生かしていきたいです。

・話を聞き、子どもも大人も安心できる環境づくりや仲間づくりが大事だと思った。

・学校に来る前の時間と帰ってからの時間を知ろうとすることが大事だと教えてもらった。改めて、家庭訪問で背景を知ることが大事だと思った。

・大人が抱えている子どもへのイメージは子どもたちに伝わるというところで、保育士が子どもたちに与える影響は大きいと感じ、自分のかかわりを振り返る機会になった。

・自分たちに求められる力、「保育力」「子ども理解力」「保護者対応力」をつけていきたくて思いました。

・子どもや保護者の思い・心の痛みを心に寄せて保育していくことの大切さについてなど、明石先生の実践を交えたお話がとてもわかりやすく、自分の保育を問い直していきたくて思いました。

・何よりも子どもを好きでいることが大切で子どもにも周りにも伝わっているのだと思った。

・明石先生は楽しくて、たくさん笑わせてもらい、元気をもらった。

・気持ちが前向きになりこれからの保育に生かしていきたい。

・保育実践で活かしたい内容が多く学ぶことが多かったです。また、自身の保育を見直す機会となりました。

・人権とは「幸せの追求」についてみんな（子どもも保護者も周りの人も自分も）が幸せになるために常に考えていきたくて思います。

・ほめて伸ばす、自信をつける、背景をみる等、生徒と接する際に、常に意識しなければならぬと思いました。また、自らの子育てにも通じるところがたくさんあると感じたので、私生活でもことばかけ等、実践していきたいです。普段、「人権ってなんだろう」と考えることがあります。明石さんのお話を聴いて、心にストンとおちる部分がありました。もっとお話を聴きたかったです。ありがとうございました。

・どの子どもも健康、元気で豊かに安心、安全に暮らせることが人権教育の基本であり、なおかつ教育を通して幸せを育むことが人権教育であることを学ばせて頂きました。また、「生徒のできていない点、不満な点を見つめるのではなく、生徒の良い所、長所をしっかりと見つめ、無限の可能性を信じて確信に変えることが教師の仕事である。」という言葉聞き、心を打たれました。良い所をたくさん見つけ褒めて、認める。これにより、自己肯定感を高めていくことができると感じました。明石先生は生徒のみでなく、大人の意識を惹きつける、とても上手な話し方をされており、私自身もいつか明石先生のような魅力的な教師になれるよう精進していきたいです。

・子どもに好かれる先生は、子どものすてきな所を見つけて、出来るという確信を持つことが大切であるということ聞き、そのために普段からもっと子どもたちのことを観

察し、コミュニケーションを密にとることが重要であると感じました。「好感」「共感」「親切感」のキーワードを大切に、生徒全員が心を開いてくれる教育をするために多くの働きかけを積極的にやっていき、生徒のつまずきにいち早く気付けるようになりたいと思いました。

・職員室と教室、とても似ているなと思いました。信頼できる人間関係、お互いの生活（仕事）を思いやる、仕事の仕方、無限の可能性を信じるチームワークと支え合い。私たち自身が、そのあたたかさを知らない、わからないのではないかと、不安になりました。日々仕事に追われ、互いを気遣う心さえもてていません。まずは自分たちの授業づくりと、つながり（チームワーク）そして健康的な生活を送る仕組みが子どもたちにかえっていくように思います。私、あたたかい教師になりたいなと思います。仕事はあまりできないけど、がんばりたいと思います。

・明石さんが、私たちの立場に寄りそって話をしてくださったので、話がストンと心に落ちることがたくさんあった。「子どもの心を開かせて」人権教育を始めること。というところは、今、私が子どもと関わるうえで抜けていた（重きをおいてなかった）気がした。どんなことにおいても重要なことだと思った。学校教育で、①健康で笑顔で、②信頼できる、③確信を持つ、子どもの可能性を広げる、そんな教師でありたいと思った。忙しさゆえに、できていないことだけに目を向けていたが、第1に子どもを好きでいる気持ちも大切にしたいと思った。

・とても明るく楽しいお話を聴かせて頂きありがとうございました。お話の中で、教育の原点を学ばせて頂きました。日頃の授業や保護者との信頼関係をこれからもしっかりと築ける努力をしていきたいと思います。

・明石先生のたいへん豊富なお話から、多様な事例をお聞かせいただいたこと、大変ありがたく思います。「良くなる見返し」を持つことは難しいですが、希望を持って職務に励みたいです。ありがとうございました。

・人権教育推進地域事業をうけたころに、明石さんのお話を聞かせていただいたことを思い出しました。あのときもたくさんの笑いをまじえながらお話をしてくれたことを覚えています。あれから月日が経ち、中学校のメンバーも大きく変わりました。事業を受けていたころに学んできたことが、今どれだけ受け継がれているのだろうか、今日のお話を聞かせてもらいながら考えていました。もう一度自分の取組、学校としての取組を見直していきたいです。ありがとうございました。

・キャッチーな言葉にまとめることの重要性を感じた。関心をひくことの工夫を細かくされているのは、日頃の成果なのだろうと思う。大人相手でも随所に入れられているの

は今後の学級懇等の参考にしたいと思いました。

・子どもの良さを認める、褒める、やる気にさせる、そして、子どもの心に火をつけられる教師でありたいと常に意識している。今後も、個性を見抜く洞察力、ポテンシャルを引き出す指導力、社会性を備えた自立した大人に導く教育力を身につけられるよう精進したい。

・大阪の人らしく、軽妙な語り口で話してくださって、終始楽しく聞かせていただきました。「大事なことは3つ」とそれぞれのポイントを的確に示していただき、項目ごとの内容が腑に落ちました。学校に求められているのは、授業がわかることやなかまづくりの他に、生活リズムが整うよう支援していくこと、子どもの安全を安心につなげていくことだということがわかりました。

・子どもたちが安心できる学校づくりのためには、子どもたちを「理解する」ことが大切であることが分かった。子どもたちが学校で見せる側面だけでなく、家庭での側面も見て、子どもたちが普段抱えていることに触れてこそ、子どもたちとの絆が深まり、授業展開や学級経営も円滑に進み、子どもたちにとっても安心できる環境を作ることができると分かった。また、家庭との関係も大切にしていきたいと思った。

・お話を聞きながら、3年前の空間に戻ったように感じました。あの時、人権教育推進地域事業がスタートして半年、「ともかく始めなければ」という思いでいた自分、笑顔で人権のことを考えることのできた自分、そんな自分を思い出すことのできた時間でした。それとともに、あの時学んだこと、大切にしようと思ったこと、小中3校で確認してやっていったことが、今、自分自身、そして学校で、校区でできているのだろうかとお問自答しています。もう一度、人権教育推進地域事業で大切にしてきたことを、今度は阿山学同研のみんなで確認し、再スタートを切ることができればいいと思います。

皆さんの感想から、全員が集まって人権の研修会を行う意義があったことを感じます。それぞれの立場は違っても、子どもが好きで、人権を大切にしたいという思いは共通しています。今年度も、昨年度と同様に阿山学同研の会員の皆さんの交流は制限されましたが、それぞれの職場では、人権・同和教育・保育を教育活動の土台にしながら活動を進めています。2018年、2019年の2年間の人権教育総合推進地域事業の柱につながる取組を引き継ぎながら、コロナ禍であっても今の自分にできることを考え、人権教育に一歩ずつ取り組んでいきたいと思っています。